

第 54 回 日本脈管学会総会が

2013 年 10 月 10 日(木)から 10 月 12 日(土)に

東京ステーションコンファレンスにて開催されます。

当院からは血管外科 医長 今井 崇裕 医師が

学術発表されますので、ご紹介します。



第54回

日本脈管学会総会

The 54th Annual Meeting of Japanese College of Angiology

テーマ | 脈管から全身を診る

期日 | 2013年10月10日(木)～12(土)

会場 | 東京ステーションコンファレンス

会長 | 一色 高明 (帝京大学医学部内科学講座)

事務局 | 事務局長: 上妻 謙 (帝京大学医学部内科学講座)

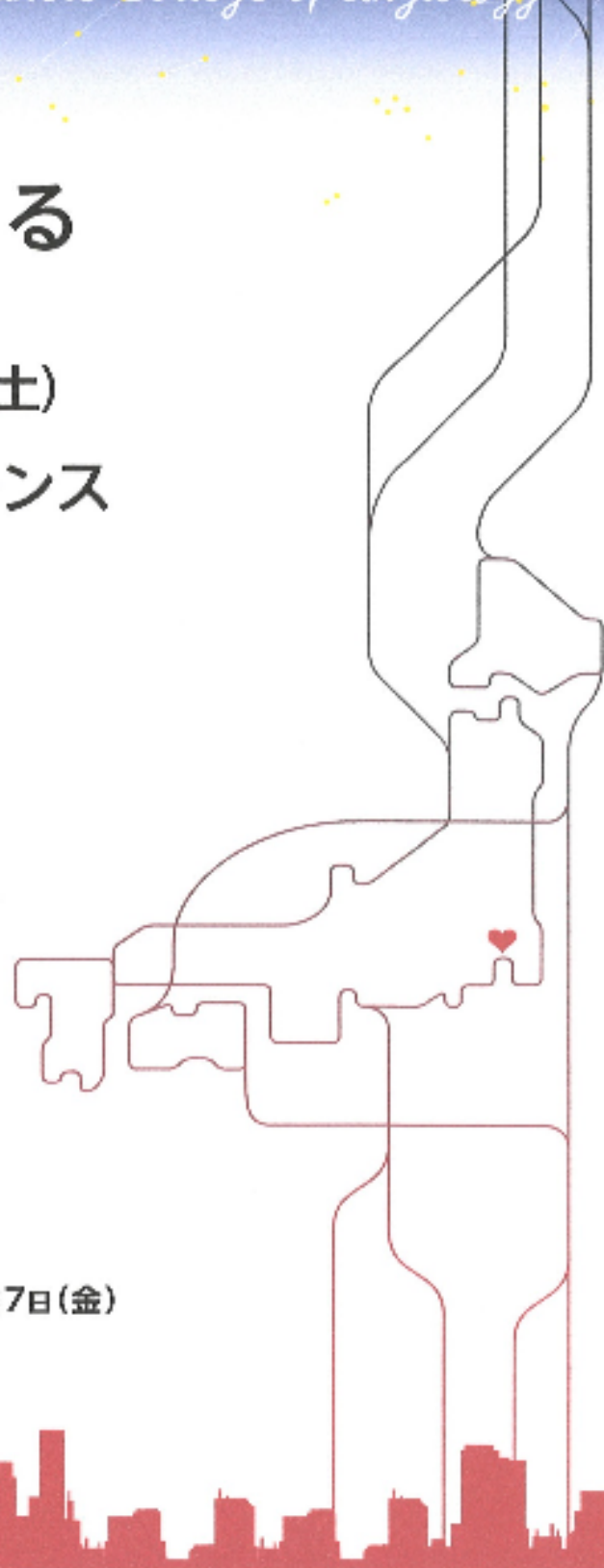
〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1
TEL.03-3964-1211 FAX.03-3964-6022

プログラム | 西丸記念講演
会長講演、招請講演、特別講演、教育講演
シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップ
脈管専門医教育セッション
一般演題(口演、ポスター)
JCAC シンポジウム、ランチョンセミナー ほか

第54回日本脈管学会総会 運営事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷3-35-3 UCCビル444 4階コンベンションアカデミア内
TEL.03-5805-5261 FAX.03-3615-2028 E-mail: 54jca@ncac.co.jp

演題募集期間 (予定) 2013年4月25日(木)～6月7日(金)

ホームページ <http://jca54.umin.jp/> より登録をお願い致します。



海洋生物皮膚炎に伴うリンパ浮腫の一例

Key Words: lymphedema, marine organism dermatitis

海洋生物皮膚炎とはその名の通り海洋生物によって引き起こされた皮膚炎である。海水浴中にクラゲやプランクトンによる刺症が知られているが、特にサンゴ皮膚炎は重症度が高い。アナサンゴモドキ属のサンゴ礁を素手で触れると刺胞毒が強いことから、発赤水泡や皮膚潰瘍を発症する。続発性(二次性)リンパ浮腫は子宮癌、卵巣癌や乳癌などで発症することが多いが、今回サンゴ皮膚炎による下肢リンパ浮腫の一例を経験したので報告する。

症例は48歳の男性。主訴は左下肢のむくみ。2週間前フィリピンでダイビング中に、左膝部をサンゴ礁と接触した。その後、左膝周囲の熱感、掻痒感、水泡が出現し、帰国後に他医皮膚科を受診され、ステロイド軟膏を処方されたが左下肢の浮腫が増悪したため当科紹介となった。受診時、左膝に水泡を伴った湿疹を認めており、左下肢は足部から大腿部まで腫脹していた。病歴の聴取や超音波検査などから海洋生物皮膚炎による下肢リンパ浮腫と診断した。国際リンパ学会による重症度分類 Stage IIIであった。以上に対して、クリニカルパスを用いて用手リンパドレナージュ、弾性包帯やストッキングによる患肢の圧迫、圧迫下運動療法、スキンケア等の入院加療を2週間行った。

患肢同径は足関節周囲 26.0cm→22.0cm、下腿周囲 41.7cm→36.0cm、大腿周囲 55.5cm→49.0cm と全部位で縮小を得られた。腫脹率（(患肢同径-健常肢同径)/健常肢同径）と減退率（(治療前同径-治療後同径)/治療前同径）を算出したところ、腫脹率は足関節周囲 23.8%→0.05%、下腿周囲 15.8%→0.0%、大腿周囲 20.7%→0.06%であり、減退率は足関節周囲 15.4%、下腿周囲 13.7%、大腿周囲 11.7%であった。